



球史ここに始まる

豊中で生まれた高校野球100周年



- ① 玉井町にある高校野球メモリアルパークには、始球式のレリーフがある
- ② 試合前に一礼するスタイルは第1回全国中等学校優勝野球大会から始まった
- ③ 開設当時の豊中グラウンド
- ④ 豊中ローズ球場（曽根南町）では高校野球の予選のほか、プロ野球の公式戦も行われる



夏の甲子園で知られる全国高等学校野球選手権大会。その前身である第1回全国中等学校優勝野球大会は大正4年（1915）、玉井町にあった豊中グラウンドで始まりました。今年8月に高校野球が100周年を迎えるこの機に、高校野球発祥の地としての歴史と歩みを振り返ってみましょう。

（魅力創造課）

日本のアマチュアスポーツの

発展を支えた豊中

大正2年5月に箕面有馬電気軌道

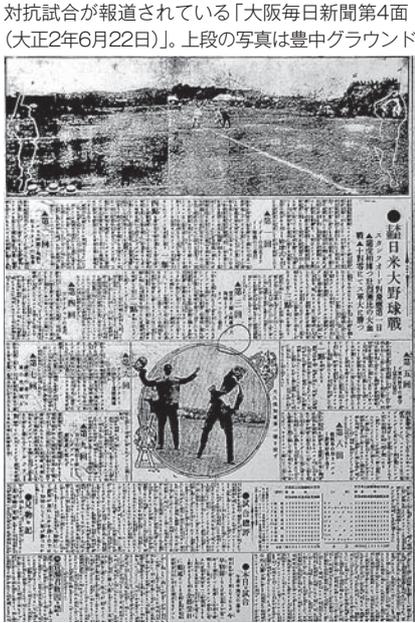
(現在の阪急電鉄株式会社)が沿線への集客のため開設した豊中グラウンドは当時、日本一の設備を誇る多目的グラウンドでした。グラウンドの幕開けは、同年6月に行われた慶應義塾大学対米国・スタンフォード大学の対抗試合。まだ野球というスポーツが珍しく、新聞にルールや見どころが掲載されていました。

その後、日米大学野球対抗戦や大阪実業団野球大会が開催され、豊中グラ



ウンドはアマチュア野球の聖地としてその名を馳せました。時は第一次世界大戦中。テレビもなく娯楽が少なかったことから、野球観戦は人びとの心をつかみ大きな楽しみとなりました。

野球以外にもラグビーやサッカーの



全国大会である「日本フットボール優勝大会」が初めて開催され、後に高校ラグビーや高校サッカーの全国大会へと発展していきます。また、日本初の陸上大会である「日本オリムピック大会」も開催され、注目を浴びました。

観戦者はもちろん、プレ

ヤーにとっても豊中グラウンドは市民スポーツ文化をリードする存在だったのです。

しかし、高校野球の人気があまりにも高くなり、観客を収容しきれなくなったため、第3回大会からは兵庫県西宮市の鳴尾球場で開催されることに。その後大正11年6月に宝塚運動場が完成したことで、豊中グラウンドは住宅地となりました。

昭和63年(1988)、第70回大会を記念し、豊中グラウンドの正門があった場所の向かいに高校野球メモリアルパークが作られ、高校野球発祥の地の歴史を今に伝えています。



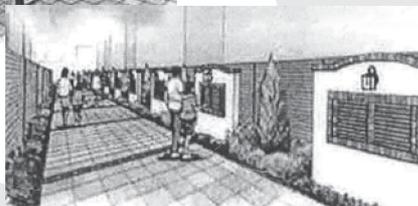
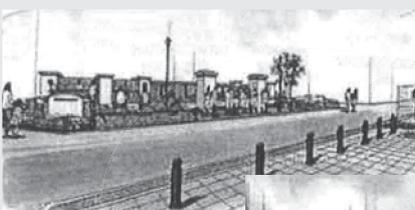
現在の高校野球メモリアルパーク

見出し背景写真(右上)は「第3回日本オリムピック大会」の競技風景(阪急文化財団所蔵)

高校野球メモリアルパークを2年後リニューアル

3年後の平成30年(2018)には夏の高校野球が100回大会を迎えます。それにあわせ現在、「高校野球メモリアルパーク」の再整備事業が進んでおり、市と地域の人たちとのワークショップを経て、整備計画を作っています。

計画では、メインエントランスに豊中グラウンドの門柱を再現するほか、高校野球の歴史を振り返ってもらえるよう、歴代の優勝校名をプレートで表示するなど、高校野球発祥の地をより多くの人に親しんでもらうことをめざします。



高校野球の発祥の地 豊中グラウンドの跡を尋ねて

岩永よし子さん(上野東3)



通信制大学で学んだ岩永よし子さんは、2年前の卒業論文で高校野球の歴史を取り上げました。そのときに調査された豊中グラウンドについて話を聞きました。

もともと兄の影響で野球が大好きで、テレビでよく見ていました。中学2年生のときに引越してきて以来、ずっと豊中に住んでいるので、

卒業論文は身近なものをテーマにしようと「高校野球」を選び、高校野球メモリアルパークに行きました。

跡地に建つ住宅には、当時のグラウンドを囲っていたレンガの塀をそのまま利用して残している家もあります。私はそのレンガに大変興味を持ち、サイズを測ったり積み方を調べたりしているうちに、その家の人が、レンガを一つ譲ってくださいました。

豊中グラウンドがどんな造りだったかを調べるときも、レンガを見るとイメージが膨らんできました。今ではこのレンガは私にとって大切な宝物です。

現在の阪急豊中駅から西へ500メートルほどに豊中グラウンドがあったのですが、当時は球場へ向かう道が

観客でぎっしりだったといっています。そのにぎやかな声が今も聴こえてくるような気がします。

私にとって高校野球発祥の地に住んでいることは、大きな誇りです。そしてこの事実を多くの人に知ってほしいですね。かつて高校野球が生まれた豊中ではいま、夏の高校野球の大阪府大会が豊中ローズ球場(曾根南町)で開かれています。元氣な観客たちに交じって観戦するのが、私の楽しみのひとつです。



豊中ローズ球場での試合予定

かつての豊中グラウンドの伝統を受け継ぐ同球場ではこの夏、当手を思い起こすような試合が予定されています。

全国高等学校野球選手権大会
大阪府大会

▼とき 7月11日(土)

第1回全国中等学校優勝野球大会出場校などの練習試合

同大会に出場した学校の現役チームが出場予定

▼とき 8月8日(土)9時

米国サンマテオ市

少年野球チームとの親善試合

姉妹都市・サンマテオ市との交流の一環

として約40年

続く交流試合

▼とき 8月

14日(金)17時、

15日(土)10時、16日(日)10時・13

時、17日(月)13時30分

WBSCU-18ベースボール

ワールドカップ

日本をはじめ、米国、キューバ、韓国など世界12の国や地域が参加する18歳以下の野球

ワールドカップ。日本初開催

▼とき 8月28日(金)9月6

日(日)



野球文化を育てた

小林一三の功績

公益財団法人阪急文化財団 学芸員 正木喜勝さん

高校野球100周年に合わせ、小林一三記念館(池田市)では、9月27日まで展示会「小林一三と野球」が開催されています。学芸員の正木喜勝さんに話を聞きました。

今回は野球、それも球場に焦点を当てて展示を行っています。小林一三と球場の関わりとして、3つの功績が挙げられます。大正2年に豊中



グラウンドを造ったこと、大正11年に宝塚運動場を造ったこと、そして昭和12年に西宮球場を造ったことです。

今回初公開となった豊中グラウンドの断面図を見ると、レンガは周りを囲むための塀ではなく、傾斜のある観客席を造成するための土留めとして用いられたことが分かります。豊中グラウンドは大正2年5月にオープンし、半年後には、観客席に

傾斜をつける改修工事を行っています。恐らく、観客が思いのほか増え、より見やすくする必要があったのでしょう。この点は、宝塚の劇場などを手掛けた小林一三ならではの視点といえそうです。当時の新聞には、豊中グラウンドに3万余りの人が来た

という記述があります。チケットの販売がなかったのです、どのように数えたのかは不明ですが、そのくらいの人が集まったといえるほど、集客に成功したのは事実。豊中グラウンドに行くことが大衆の娯楽として根つき、新しい文化を創造したといえ、その果たした役割は大きいのではないのでしょうか。ぜひ、当時のにぎわいや熱気を、展示を見ながら想像していただけたいと思います。



今回初公開の平面図および断面図(阪急文化財団所蔵)

高校野球発祥の地・豊中 記念シンポジウム開催

高校野球が生まれ、アマチュアスポーツの中心地だった豊中から、市民がスポーツに親しむ文化の素晴らしさを未来に向けて発信します。

▼とき 8月1日(土)13時〜16時

▼ところ 2階アクア文化ホール(曾根東町) ▼申込み

電話で魅力創造課 ☎6858・28063。ファクス可(催

し名、住所、名前、電話番号を記入) ☎6858・3886

4。市ホームページからも申込み可。先着順

〈第1部…基調講演〉

NHK野球解説者・田口壮さんが、野球を楽しむ文化、市民スポーツを楽しむ素晴らしさを語り



〈第2部…シンポジウム〉

第1回大会出場校の卒業生や主催した新聞社など、全国中等学校優勝野球大会にゆかりのある団体の関係者が、豊中グラウンドや同大会をはじめとするスポーツ大会の歴史的意義、スポーツ文化の重要性などについて語ります。